

P B L 教育フォーラム 2013

P B L における学習効果の検証－卒業後の現場から－

アンケート結果

■第1部

1. 『卒業生による発表』は、参考になりましたか？

<教員>

- 池田さんの発表の中で「3ヶ月間何も主体的な取組みができず危機感が募った。これまでにない体験だった」の部分が印象的だった。プログラムの仕掛けに共感した
- 社会人としての視点と学生時代の振り返りの視点が重ね描かれていたので、それぞれの大学の取組みのコンセプトの違いを具体的に理解できた
- 「教育効果が実社会でどう役立っていると思うか」と本人に聞くことが出来ないので今回の機会は良かった。しかし今回登壇した方々は優秀な、トップレベルの方だと思うので、上手く取組めなかった方の意見も聞いてみたい
- プロジェクトの経験が芽生えてきている様子が分かりよかった
- 卒業生の話は、教員側の独善的な授業構成を避けるためにも貴重なものだった
- PBL、プロジェクト科目は、本当に効果測定が難しいと感じます。卒業生の方は皆すばらしい。元々素地があったのか、学生時代の活動で育ったのか、会社に入り仕事を通して育ったのか、やはりそこはクリアになりにくい
- 各大学の運営体制と単位とのかかわりが参考になった
- 「プロジェクト」という表記でくくられてはいるが、その中身や仕立ては個々に異なるものであり、視野の拡大になりました。その一方で、学生の成長面では同様のものが見られ面白いと思いました
- PBL の教育的意義・評価は、在学中から社会人と横断的に行う必要を感じました

<職員>

- PBL の効果という点を卒業生が振り返っている点が興味深かった
- 卒業生の話に具体的な成果が見られた。ただ、彼らは全員成功者（受講者という観点から）なので、PBL の落伍者の話が全くなかったというのは、少し残念で耳障りがよすぎる印象をもった
- 自分の関心が「仕組み」にあったため、卒業生の話に強い関心はなかったが、体験者の言葉は仕組みの成果として非常に参考になった
- 自身も PBL の受講生であったため、同じように PBL を経験した方の話を聞かせていただけることを楽しみにしていた。「活かさきれていないこと」の話がよかったです。またパワーポイントを使用せずに発表されていた方がいらっしまったこと、また、使用された方も情報を掲載しすぎずご自身の言葉で語っていたことが印象的でした
- 在学中の PBL 活動が、現在の仕事にどのように活かされているのか、それぞれの視点で展開されており興味深かった

<大学院生・学生>

- 目に見えない「感じ方」を知ることができた一方で、PBL をどう考え評価すべきか疑問の深まりを痛感した
- 活動が活着している部分とそうでない部分は非常に参考になった
- 社会人の方の意見（声）を聞いただけで満足でした。加えて、卒業生の皆さんが共通して話しておられた「自ら動きださないと何も始まらない。何も学べない」という言葉に非常に共感しました
- 自分が行っている活動が、社会人になった時どの様に役立つのかという具体的なお話が聞けて勉強になった
- 今行っていることが、どのような仕事に結びつくのかがイメージできた。それとともに、やはり学生と社会人は違うということを理解できた。より厳しい評価をクリアしていくために工夫していかなければと思った
- プロジェクトが人材教育とどのように繋がっているのか知ることができた。また、大学の特色が PBL のカリキュラムにどう活かされるか比べられることはおもしろい

<企業関係者>

- 卒業生の振返りが具体的でよかった。特に就職後から振り返ることに意味があったと思う
- PBL から社会へのつながり・繋がっていないところ、PBL を受ける側と提供する側のギャップが伺えた。現在の PBL の現状がよくわかった

2. 内容等についての、ご意見やご感想

<教員>

- 効果測定に関する取組みにも踏み込んだ発表を聞いたかった。一方、山田先生のユーモアを交えたお話の端々に折こまれたキーワードにとっても共感した
- なかなか実現は難しいと思いますが、成功例だけでなく失敗例も聞ける場があるとよいと感じる。素晴らしい取組みはベストプラクティスとして参考にはなるのですが、少し雲の上の取組みに思う
- 良い点だけでなく、現存の困っている点、問題点について発表者からの発信があったことは嬉しかった
- プロジェクトへ参加しても上手くいかなかった、ほとんど能力がつかない者もいると思うので、そういった方の話も聞きたい

<職員>

- 卒業生のプロフィール中に、学生時代の課外活動実績が紹介されるとさらに良いと思う
- 上質な一部の資質が磨かれた結果なのか、PBL の教育の成果なのか気になるところです。東海大学の方が課題として挙げておられた「教育効果」の評価が重要になってくると感じた
- PBL を経験した学生がしっかりしている、しかもリーダー格の人間が社会に出て活躍されているのは想定させる範囲である。もっと広い範囲で学習効果を検証していくことができるのか、また必要があるのか踏み込んで話を聞く、分析してもらいたい。効果を検証して、その目的が何なのか明確にする必要がある。卒業生からの話は一つの要素であるが、担当企業の方の話、卒業後の就職先企業からも話を聞く必要がある。完成されていない教育方針、今後ますますの改善、チャレンジできる PBL の教育効果、学習効果を検証する現場に関わっていきたい。同志社はほかとは違う、同志社

らしさがあり、とても面白い。キーワードとしても学生に失敗させるということを意識させている。失敗から学んだことについて検証したい

- PBL 体験が社会に出てから役立ったとの卒業生の言葉は PBL の評価になると思う
- PBL の内容について、大学側がどの程度のヒト・モノ・カネを使っているのか数値を教えてください
- 教育指導と主体的学習の呼応が垣間見えました
- 自治体、企業、団体とのマッチング、活動資金の確保、学内教育改革の効果・課題について詳しく聞きたい。学生がプロジェクトの主になるが、外部との連絡、調整は学生が行うのか、大学組織が行うのかも確認したい

<大学院生・学生>

- 大学によって PBL をどのように位置づけているかが異なっており興味深かった
- 大学内でもさまざまな種類の PBL（ものづくり・イベント等）を行っているので、別の大学を比べるだけでなく、学内でもプロジェクトの考え方の違いを卒業生を通じてみたい

<企業関係者>

- 各大学の特色を示すものなので、ブラッシュアップはしながらも独自のオリジナリティあふれる PBL を期待しています

<その他>

- 在学中に PBL に取り組んだことが社会に出て役立つのかどうか、もうひとつ明確ではないように感じた

■第2部

1. パネルディスカッション「社会が求める人間力と大学が育てる人間力」は、参考になりましたか？

<教員>

- まず、各卒業生がきちんとプレゼンテーションやディスカッションできることに、その成長を感じ取れました。そして、自分のことをしっかり分析し話されていることに感心した
- 改めて、学生のやる気スイッチ(?)にどう火をつけたらよいか、気付いていない学生の背中をどう押したらよいか、大学のプログラム設計、学生への告知方法について考えさせられた。成果（人材育成としての）の見える化に答えはあるのか？答えはいるのか？
- PBL で主体性に代表される社会人基礎知力をどのように身につけたのかを知る参考になりました。社会人基礎力は抽象度の高いものであるため、学びのプロセスを知ること、自分なりに良き事例だと思いました
- PBL が極めて多面的であるということが理解できた。どこに軸をおいてプログラムを設置するかについて、今後の参考にさせていただきます
- 元々要素がある学生にとって、PBL 的な取組みは大きな成果に結びつくことが実感できた
- 「ある程度の視点を与えてほしかった」「実際に企業と関わる機会を増やしてほしい」など、学生の率直な意見がきけてよかった

<職員>

- PBL を通じて（課外・正課関係ないかもしれませんが）、学生にある程度の負荷を感じさせないと、成長にはつながらないのだと分かりました
- PBL 活動に参加して、どう現在の仕事で活かされているか、生の声が多角的な質問でうかがえた
- 社会に出ていった後の困難回避方法はおもしろかった。自分の意識していないところで、プロジェクトの成果が活かされているのだと分かった
- 質問に対する答えが、今まで学んできたことが表れているように見受けられ大変興味深かった
- PBL を全肯定する議論でない点が興味深い
- 学生の考えるプログラムの魅力が聞いてよかった（ネーミング・呼び込む体制等）

<大学院生・学生>

- 苦労話は参考になったが、題にある「人間力」というところに触れられたか疑問。第1部でも何度も出てきた言葉だったので、それがどう表れているのかまとめてほしかった
- 修羅場を乗り越えた経験や何かを成し遂げた経験から得たことを聞いた
- 学生の時には分からなかった PBL での経験の意味を、社会人になってわかってくるという話が印象的でした
- プロジェクトの意味や学べること、社会人の視点から教えてもらうことはめったにないので、とても参考になりました
- 場の雰囲気やパネリストの体験、思いを PBL に結びつけてしまいがちだったように思う。どういったことが社会人となって必要と感じ、自身の経験をふまえて、大学教育へどういったことを望んでいるのかを示してもらいたかった

<企業関係者>

- PBL 以外での身についたことなど、社会人基礎力だけでは身につかないことを聞いた
- 「参考」という言葉とは異なるが興味深い。卒業生は「社会に直結していないかも」と言いながら、その経験が活かされている話が多くあった。Learning としては成立しているが、大学側としての意図が 100%伝わっているわけではないかもしれないが、それはやはりすばらしい事である
- 実際の職業での体験と PBL での経験をつなげて話していただき、教育効果が非常にリアルに聞いて良かった

<その他>

- 社会に出てからも PBL での経験が活きる。そのことを社会人の先輩が活かしてくれたことを本人たちがより強く気付き、意識できたのではないのでしょうか。また、生涯学習、社会人教育にも重要な授業だと確信しました

2. 内容等についての、ご意見やご感想

<教員>

- 山田先生がパネラーから引き出すのではなく、パネラーたちの経験等を共有してもらう方が、もっと PBL の成果が参加者に伝わったのではないかと。もっと主体的な態度が見たかった

- 最後までついていけず脱落した学生や、第三者的に取組みに参加していた学生（もし居たとするならば）、卒業してどうなったのかと思う
- 取り組んだ課題や結果に感じては意識されているようだが、取り組むプロセスでの意識（振り返り）は具体的になされていないように感じた。途中で、評価・フィードバックなど、検討しなければならないと感じた

<職員>

- 前半のプレゼンに比べて、4氏の意見が徐々に真のことばになっていくのが分かりました PBL を経験したことから、瞬間的に自分の経験を振り返り明解に言葉に出来るのだと感じた
- 単位化を目指している大学にとっては、とても参考になった。学生の「何かをやってみたい」という気持ちをアシストできるようなプロジェクト、フィールドワーク先を開拓していく必要があると実感できた
- PBL の教育効果を社会にもっと認知してもらうために今後もこのようなフォーラムは必要だが、それでも足りないと思う。データや数値として現われるものを伝えていくだけでは不十分である。経験したことがある学生を一人でも多く輩出し、社会の認知度を上げていく必要がある。
- 私としては、昨年度受講した学生さんの話が聞けるスタイルを、また次回もやってほしいと思います。振り返りきれていない、モヤモヤした気持ちの学生の話が聞けるのがおもしろい
- 今回 PBL を通して得たことが話の中心だったように思いました。その中で語られる内容は、PBL でなくても学べるのではないかと感じていましたが、山田先生の最後の設問でスッキリしました。クラブ活動などでは、ゴールを向かえてしまえばそれで終わりですが、後で振り返ること、反省することが（する必要はある）教育のなのだと思います

<大学院生・学生>

- 「主体性」と「チームワーク」は一見対極にある言葉だが、それぞれが PBL の立場で「根回し」や「とことん話し合い」「協力」「分担」など異なる方法で、この2つを表現しているのがおもしろい
- 根回しの話、構成力・構想力、相方を見つける話等、社会に出て役立つ話が盛りだくさんでとてもおもしろかった

■その他、ご意見やご感想

<教員>

- 学部の専門教育と PBL 教育との関係をどう捉えていけばよいか、また教えていただきたい
- テーマや評価方法など多くの課題が山積していますが、今回のフォーラムで PBL 教育の根幹で必要となるものに気付かされた
- 育成するための教材としての評価にどう取り組んだのか、実践事例をお聞きしたい。それによって再現性や定着率があがると思います

<職員>

- 現役学生の率直な意見が印象的でした（フロアからの質問）。今回のフォーラムをうけて悩みながら、迷いながらも自分の活動を続けていこうと思ったのではないのでしょうか。卒業生から現役学生へのメッセージはコンスタントに伝えていくといいと感じました。また、卒業生の追跡調査は行う

価値があると思う

- PBL を実践する上で、学生の具体的なスキル支援をやるべきなのか？やらないべきなのか？やるとすればどこまでやるのか？前から PBL 系のイベントに参加して話を聞いていて、これまでも疑問に思っていたが、今日も改めて感じた
- ある意味でサポートする側も社会人として一流である（目標設定など）必要があると感じた
- 大学側が支援金を提供できない場合、こうした事業は実現不可能なのか気になった。（地方公共団体より業務委託された事例の PBL 教育・失敗が許されない事例を知りたい）
- 個人的に社会人になってから「プロジェクト科目をやっているときはできたのに」と感じる事が多く、それが自己嫌悪に繋がる事があったのですが、パネリストの方の「活かしきれていないこと」を聞いて、そういった部分もあるのだなと感じ、そこが「大学」「学生」「社会人」の違いなのかと思いました。当たり前ですが、場所、環境や立場が変われば、必ずしも同じように出来るわけではなく、その環境の中で出来るように工夫・努力していくことが大切なのだと思います
- 仕事をするということは、ゴールのない道の中で目的地＝目標をつくりながら、課題＝仕事に取り組む、まさに PBL だと思っている。仕事をする社会人は全員経験したほうが良いと思う

<学生>

- PBL の存在感が薄い
- 大学内の知名度があまりよくないので、もったいないと思う